

Vous etes theatre ou cinema? 構文に関する覚書

著者名(日)	藤田 知子
雑誌名	神田外語大学紀要
巻	24
ページ	57-76
発行年	2012-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1092/00000603/

Vous êtes théâtre ou cinéma? 構文に関する覚書^{*})

藤田 知子

Quelques notes sur la construction " Etes-vous théâtre ou cinéma ? "

Tomoko FUJITA

Cet article se propose d'étudier la construction attributive en français (N1 ETRE N2) telle que " Etes-vous théâtre ou cinéma ? ". Ce type d'énoncé, fréquent en français oral familier, a un sujet N1, humain, ainsi qu'un attribut N2 qui, lui, est dépourvu de déterminant. Le verbe ETRE ne fait que relier ces deux éléments. Cependant l'énoncé en question s'interprète comme " N1 aime/préfère N2 ". Par quels procédés linguistique et pragmatique cet effet de sens se réalise-t-il ? Pour y répondre, nous nous sommes librement inspirés de la théorie de J.-Cl. ANSCOMBRE (2001). Après analyse, nous soulignons que N2 ne peut être qu'un terme stéréotypique susceptible d'évoquer une propriété stéréotypique, connue et partagée par les membres de la communauté linguistique française.

0. はじめに

本稿は現代フランス語における次のような無冠詞属詞構文を取り上げる。

(1) Etes-vous *théâtre ou cinéma*? -Je suis plutôt *cinéma*.

繫合動詞 ETRE が、主語名詞 N1 と冠詞をとらない属詞名詞 N2 を結ぶだけのこの文は、日本語に訳すなら「芝居派？ 映画派？ —— どっちかっていえば映画派かな」といったニュアンスをもつ。こうした意味効果はどのような仕組みによって生み出されるのだろうか。本稿では、ステレオタイプの概念を導入するとともに、日本語との対照の観点を取り入れることによって¹⁾、

本構文が提起する問題の広がりを示したい。

1. 無冠詞属詞構文と先行研究

一般に、フランス語の属詞構文 <N1 ETRE N2> では属詞名詞 N2 が国籍、宗教、職業・身分を表すとき、冠詞を省略するが、N2 は N1 の性数に一致するのが原則である²⁾。

(2) Je suis *français(e)/Français(e)*. 「私はフランス人です」

(3) Je suis *protestant(e)*. 「プロテスタントです」

(4) Je suis *étudiant(e)/professeur*. 「学生／教師です」

こうした典型的な無冠詞属詞構文についてはすでに多くの研究があるが、他にもあまり取り上げられていない類似の構文がある³⁾。LAUWERS (2005, p.1) はそうした構文を4つに分類し、次のように注釈している。

(5) Mon frère est très professeur/curé. (very 'teacher/priest'-like)

(6) Ce film est très théâtre. (very 'theatre'-like)

(7) Je suis (très) fromage. (I like cheese, I eat cheese very often; "I am into cheese")

(8) Cet été sera (très) livre/cinéma/sport. ("during this summer, the focus will be on literature/film/sports")

LAUWERS (*opus cit.*) は上の4つの無冠詞属詞構文の類似性と相違点を、属詞構文全体を視野におきながら包括的に解明しようとしたすぐれた論考であり、本稿も多くの示唆を受けている。彼の考察は次の二点を中心に展開する。(1) 冠詞をとらないことによる属詞名詞 N2 の形容詞化に関わる諸問題⁴⁾、および、(2) 繫合動詞 ETRE とその位置に生じうる準繫合動詞 (*devenir, sembler* 等) のタイポロジーの構築。

ところで、本稿が取り上げる(7)のタイプに初めて言及したのは NOAILLY (1990, pp.202-203) である。日常のくだけた口語で頻繁に用いられ、破格な

印象はなく、ほとんどスタンダードになった表現とし、"être N-phile", "être favorable à", "préférer", "aimer" と注解する。

また、GOES (1999, pp.69, 110, 162) は本構文が (1) 具体的な対象への「好み」や「支持」をあらわし "être pour..." の意味をもつ、(2) N2 は「完全に N1 の外にあり」、N1 への性数の一致を行わない、(3) 大半の用例が程度副詞 *très* を伴い、*très* がないと文の容認可能性が低下する、と指摘する。

以下においては、本構文が提起する問題の広がりやさらに掘り下げる試みとして、好みを表す基本動詞 *aimer* と比較しながら、LAUWERS らとは若干異なる角度から本構文へのアプローチを試みる。

2. Vous êtes théâtre ou cinéma? 構文の考察

2.1. N1 の制約

本構文が人の好みに関わる以上、N1 がもっぱら人であるのは既に LAUWERS (2005, pp.3-4) が指摘する通りである。無生物は無理であろう。人の 1、2 人称の用例はすでに見たが、例 (9-11) に見るように 3 人称の人、総称的な人、さらには動物も受容される。

- (9) *Avec Pierre, on ne va jamais au restaurant italien. Parce que Pierre n'est pas du tout pizza, il est plutôt couscous. Alors on va au restaurant marocain.*

「ピエールとはイタリア料理の店には行かない。ピザ党じゃなくて、タクス党だからね。だからモロッコ料理の店に行くよ」

- (10) *Connaissez-vous la blonde de Bob? C'est une bière douce à l'arôme fruité, et surtout sans additif, ni pasteurisée. Les filles, en général, on n'est pas très bière; mais là, il faut dire que celle-ci est pile pour nous!* (<http://forums.studyrama.com>)

「Bob の淡色ビールって知ってる？ フルーツの香りのソフトなビールで、なにより無添加、無殺菌。女の子ってあまりビール好きじゃ

ないけど、これは私たちにぴったりと言うべきね」

(11) *Mon chat est très viande.*

'My cat likes meat very much' (LAUWERS, 2005, p.3)

では N1 が植物の場合はどうか。

(12) *L'hortensia préfère les terrains acides. (Le Petit Robert)*

「あじさいは酸性の土壌を好む」

好みをもつ「主体」として植物はやはり無理があると思われる。ところで、次の例を見てみよう。

(13) *Vous êtes plutôt cinéma ou DVD ?*

-Par la force des choses, à cause de mon emploi du temps, DVD ! Je suis très bien équipé, et les derniers que j'ai achetés ... (GoogleF)

「あなたは映画館派、それとも DVD 派？ —— 生活時間の関係で、いやおうなしに DVD 派！」

ここでは人の「好み」というよりは「生活習慣」を表していることが文脈から明らかである。このように、本構文の N1 は、嗜好 *préférence* や生活習慣 *habitude* をもつ主体として、圧倒的に人であることが確認できる。

2. 2. ETRE N2 の制約

ところで坂原 (1990a, pp.4-5) は、属詞構文を大きく「記述文」と「同定文」に分け、前者を「すでに同定されている対象への属性の追加」、後者を「役割への値の割り当て」と定義し、次の用例を挙げている。

<記述文>

(14) a. *Il est étudiant.* 「彼は学生だ」

b. *Baudelaire est l'auteur des *Fleurs du Mal* / un poète français.*

「ボードレールは『悪の華』の著者／フランスの詩人だ」

<同定文>

- (15) *L'auteur des Fleurs du Mal est Baudelaire / un poète français.*

『悪の華』の作者はボードレール／フランスの詩人だ」

坂原の分類に立つならば、本構文は明らかに記述文のタイプである。ETRE は N1 と N2 を関係づけるだけであり、aimer のような語彙的意味内容は希薄である。だが、本構文の ETRE N2 が N1 に付与する属性は、すでに述べたように、aimer N2 が表す意味内容に似ている。LAUWERS (2005, pp.3-4; à paraître, p.19) が言うように、N2 は N1 (人) の好みや生活習慣の「対象」となっているものである。先に見た例 (4) では、おおまかに N1 = N2 (je = étudiant) と置くことができるが、本構文ではそれはできない。GOES が指摘するように、N2 が N1 の性数に一致しないという統辞的制約からも窺えるように、N1 と N2 は意味的にも独立性が高い。その特徴は、N2 が形容詞から派生した名詞の場合にとくに顕著に観察できる。

- (16) *Etes-vous "salé" (*-e/*-s/*-es) ou "sucré" (*-e/*-s/*-es)? (Ado 1, 54)*

「あなたは塩からい物が好き、それとも甘いものが好き？」

- (17) (Question-Réponse Sexy) *-Etes-vous blonde ou brune? -Je suis blonde.*

(セクシー Q&A) 「あなたはブロンドの女性が好き？それとも褐色の髪の女性？—— ブロンドが好きだよ」

(16) がもし vous の性数に一致するとしたら、vous 自体が「塩っぱい (甘い)」ことになり、滑稽である。(17) では文脈からして N1 の vous, je は男性と考えられるが、N2 の blonde は (femme) blonde を含意し、vous の性数に一致しているのではない⁵⁾。

以下においては、本構文と動詞 aimer の使用条件を比較しながら、N2 が一項の場合と二項以上の場合に分けて検討する。

2. 2. 1. N2 が一項の場合

動詞 *aimer* は後に不定形を従えることができるが、本構文は無理であろう⁶⁾。

(18) a. *J'aime marcher à pied.* 「歩くのが好きだ」

b. **Je suis marcher à pied.*

2. 2. 1. 1. 普通名詞の場合

N2 が普通名詞で個別的な指示対象をもつ場合、*aimer* の使用は問題ないが、本構文は不可となる。

(19) A: *Elles sont super tes chaussures!* 「すてき、あなたの靴！」

B1: - *Oui, j'aime bien.* 「うん、気に入ってるんだ」

B2: - **Oui, je suis mes chaussures.*

(20) a. *J'ai bien aimé ce film.* 「その映画はとても気に入ったよ」

b. **J'ai été ce film.*

N2 は限定詞をとらない裸名詞であるから、本構文が個別的な対象への好みを表現することができないのは当然と言えよう。

では N2 が普通名詞で総称的な指示対象をもつ場合はどうか？ GOES は程度表現を伴わないと文の容認可能性が低下すると述べ、LAUWERS (*à paraître*, p.1) も程度副詞の使用をほぼ義務的としている。

(21) *J'étais très métro, mais avec les grèves (...)*

> (?*Je suis métro.*) (TF1, déc.1995, 20h, in GOES, p.162)

「以前はもっぱら地下鉄派だったけど、ストライキがあるからね…」

次の例でも同様の事実が観察される。

(22) A: *Tu aimes les bonbons?* 「ボンボンが好き？」

B1: - *Oui, j'aime ça.* 「うん、好き」

B2: - ?*Oui, je suis bonbon(s)*⁷⁾ .

< B3: - *Oui, je suis assez bonbon(s).* 「うん、まあね」

< B4: - *Oui, je suis plus bonbon(s) que glace.* 「うん、アイスより好きだよ」

(22A)の答としてもっとも自然なのは *aimer* を使用する (B1) だが、本構文も可能である。ただし程度表現を伴わない (B2) は確かに文として座りが悪い。(B3) のように程度副詞を伴うと容認度が改善するのは N2 の形容詞性が増すからである⁸⁾。その結果、ETRE N2 の、N1 に属性を付与する働きが明確になり、記述文として安定するのではないか。また (B4) のように比較構文によって他項が導入されることによって、2つの属詞名詞の記述内容が対比されて属性付与の読みが鮮明になり、文が安定すると考えられる。

2. 2. 1. 2. 固有名詞

では N2 が固有名詞の場合はどうか。既に見たように、N2 が個別的な対象を指示する場合、本構文は使用できないが、固有名詞も同様である。

(23) a. C'est Paul que j'aime, nous allons nous marier.

(『白水社ラルース仏和辞典』)

b. *C'est Paul que *je suis*, nous allons nous marier.

「ピエールを愛してる、だから結婚するの」

では程度副詞を伴う場合はどうか。

(24) *Je ne suis pas *très Pierre/Marie*...

(25) Je ne suis pas *très Chirac*. (I don't like Chirac (or his policy)).

(LAUWERS, à paraître, p.4) 「ぼくはあまりシラク支持じゃない」

この違いは何に由来するのだろうか。(24)の N2 である *Pierre* や *Marie* は一般人、(25)の *Chirac* は政治家である。*Chirac* は元大統領としてフランス語共同体のなかで知名度が高く、ブルドーザーと称された行動力、老練なキャラクター、在任中に推進した政策など、言語共同体の構成員は一定のイメージを共有している。そうしたイメージを「ステレオタイプの属性」、そのような属性を喚起する N2 を「ステレオタイプの辞項」と呼ぶことにしよう⁹⁾。すると (24) の *Pierre* や *Marie* は言語共同体の中で周知性が無く、そうしたステレオタイプの属性を喚起することができない。容認度の違いはこうした事

実から生じていると思われる。

(26) Il est très *Monoprix*. (LOPEZ DIAZ, 2008, p.70)

「彼はモノプリ党だ」

(27) *Soyez logique. Soyez Logan.*

(<http://blog-auto-infos.lci.fr/article>, TF1 NEWS)

「論理的であってください。ローガン党になってください」

(26) の *Monoprix* はフランスの有名スーパーとして周知性が高い。食料品の品揃えの良さなど、言語共同体の構成員によって共有されるステレオタイプの属性を備えている。(27) はルノー社が低価格車 *Logan* をフランスに投入した時の広告コピーである。*logique* と *Logan* は頭韻を踏んでいるためか程度副詞はない。*Logan* はルーマニアで既に販売されて成功をおさめており、フランスでなら普通車 1 台分の価格で 2 台買え、しかも頑丈であることを売りにしている。本構文は *Logan* をそうした属性をもち、周知性のある対象として提示する意図に適っているのである¹⁰⁾。

このように、N2 が固有名詞の場合、言語共同体において周知の属性、すなわち、ステレオタイプの属性を喚起しうる辞項でなければならないことがわかる。N2 が普通名詞の場合も実は同様であることは、N2 が二項以上の用例の検討を通してより明らかになる。

2. 2. 2. N2 が二項以上の場合

2. 2. 2. 1. 二項 (ペア) ・総称的

N2 が二項の用例はインターネット上の性格判断やアンケートにその典型例を見ることができる。わかりやすく単純な二択の質問をして答を引き出す形式である。

(27) A: *Etes-vous chien ou chat?* 「あなたは犬派、それとも猫派？」

B1: *-Je ne suis pas très chien. Je suis plutôt chat.*

「あんまり犬派じゃないな。どっちかっていうと猫派かな」

B2: *-Je suis à 100 % chat. Ah j'adore!*

「完璧に猫派。もう、猫大好き！」

B3: *-Les deux. J'aime les animaux. 「両方。動物が好きなんだ」*

B4: *-Ni l'un ni l'autre. 「どっちでもない」*

(27A)のように、N2 が二項あると属性が対比され、記述的な読みが鮮明になる。そのため程度表現は無くても差し支えない。また (B1,2) に見るように、本構文は否定や *plutôt* とも相性がよい¹¹⁾。(B3,4)のように両方を肯定または否定することもできる。だが、(B4)を(B5)のように続けるのは不自然である。

B5: *Ni l'un ni l'autre.? Je suis lapin/poisson rouge.*

「どっちでもない。?ウサギ派/金魚派だよ」

ウサギも金魚もペットとして飼っている人はいる。だが、発話者と共発話者が属する言語共同体において、愛玩動物を代表する安定的・恒常的なステレオタイプの辞項として共同主観に刻み込まれているのは *chien* と *chat* のペアなのである。接続詞 *ou* によって結ばれる両項は、属性のコントラストが鮮明で¹²⁾、かつ、ペット全体を二項対立的に単純化して代表するにふさわしい典型例(プロトタイプ)であり、第3項以降はとりあえず捨象される¹³⁾。以下の例を見てみよう。

(28) **Etes-vous chat ou siamois?* 「*猫派ですか、シャム猫派ですか？」

(29) *Etes-vous siamois ou persan?*

「シャム(猫)派? それともベルシャ(猫)派？」

(30) *??Etes-vous (persan) bleu tabby ou (persan) caméo?*

「ブルータビー派? カメオ派？」

(28)が受容されないのは、*chat* と *siamois* が上位概念語と下位概念語の関係にあり、同一レベルの辞項ではないからである。それに対して、(29)のようにレベルが揃っているペアは容認される。だが(30)に見るように、*persan* の、

さらなる下位概念語は受容されないだろう。フランス語共同体においてステレオタイプの辞項として周知性を保証されているのは、基本レベル *chat* の下位レベルである *siamois/persan* までである。専門語彙に属する *bleu tabby/caméo* は言語共同体の構成員が共有する共同主観に含まれるステレオタイプの辞項の範疇をはるかに越えているからである。

次の例を見てみよう。

(31) *Je suis plutôt août que juillet.* 「7月党というより8月党」

(32) *Etes-vous plutôt fromage ou plutôt dessert?*

「あなたはチーズ党、それともデザート党？」

(31)は「7月より8月が好き」という意味ではなく、フランス語共同体のなかでステレオタイプとして確立した、周知性の高いライフスタイルを表現している。すなわち、「夏のヴァカンスに早目(7月)に出るより遅目(8月)に出る」という生活様式を *ETRE N2* という属詞構文を用いて *N1* に属性として付与しているのである。(32)はフランス料理に関わっており、メイン・ディッシュの後にチーズ、デザートと続くが、どちらか一方だけ食べることもできる。つまり、塩っぱい物(チーズ)系と甘い物(デザート)系のどちらを好む人なのかを尋ねているのである。両例ともフランス語共同体の構成員が共有する文化的・社会的共同主観を支えとし、その中で周知性が高い典型的なステレオタイプの辞項が担っているステレオタイプの属性を *N1* に付与しているのである。また、時代状況や文脈も関与的である。

(33) *Vous êtes dictionnaire électronique ou dictionnaire-papier?*

「電子辞書派? 紙辞書派?」

(34) *Vous êtes Japon ou Chine?* 「日本びいき、それとも、中国びいき?」

(33)はCD-ROMや電子辞書が市民権を得る以前はありえなかった発話であるし、(34)は東アジアについて論じている文脈があれば解釈が可能である。*aimer N2, être N2-phile, être pour N2* という注解のなかの *N2* は上記のような

性質をもっているのである。

N2 が三項以上 (セット) で総称的な例も挙げておこう。

(35) A: Vous êtes *rouge, blanc ou rosé* ?

B: -J'aime bien le rouge, mais depuis peu, je viens de découvrir le blanc que je préfère. (<http://www.ladepeche.fr/article/2011/04/15>)

「あなたは赤党、白党、ロゼ党？」

「赤が好きだけど、最近、白で好きなのを見つけました」

(36) A: Tu es plutôt *printemps, été, automne ou hiver* ?

B: -Hiver.

-Printemps et été.

-Printemps, été et le début de l'automne. (<http://forum.melty.fr>)

「春、夏、秋、冬のどの季節が好き？」

「冬」「春と夏」「春、夏、初秋」

このように、本構文の N2 は言語的という以上に、きわめて文化的・社会的・歴史的に構築されるものであり、文脈や状況も関与する。したがって N2 は、あるカテゴリーの代表ないし典型例という意味で「プロトタイプ」と重なる安定的なものもある。だが、周知性、単純性、可変性を考慮すると、文化的・社会的・歴史的な含みが強い「ステレオタイプ」がよりふさわしいと考える。N1 をフランス語共同体における共同主観に根ざすステレオタイプの辞項 N2 と関係づける本構文の読みは、このように極めて語用論的に構築されるのである。N1 と N2 の意味的・統辞的な独立性の高さからして、ETRE が結ぶ N2 は N1 のライフスタイル (好み、生活習慣) を示すものと解釈される他ないと思われる。

3. その他の問題

以下に、本構文が提起するさまざまな問題を今後の発展のために書き留めておく。

3.1. N2の数(の一致)

本構文は日常のくだけた口語での使用が基調であるが、書かれることもある。N1とN2の意味的・統辞的独立性が高く、N2はN1の数に一致しないことは既に見た。

(37 = 22) A: Tu aimes les bonbons?

B1 -Oui, j'aime assez les bonbons.

B2 -Oui, je suis assez *bonbon (s)*.

だが、上の例のようなやりとりを文字化する場合、N2が可算名詞である *bonbon* には複数形のマーカー (-s) が必要なのだろうか。もし -s を取るとしたら、動詞 *aimer* の直接補語名詞の数を踏襲するとしか考えられない。言うまでもなく、*aimer* の場合は補語名詞が可算か非可算かによって数が決まる (cf. *J'aime les bonbons/la glace*)。

フランス語の書き言葉と話し言葉では数の体系が異なるのは BLANCHE-BENVENISTE (2004, p.148) が指摘する通りである。書き言葉では数の一致は義務的であるが、話語では名詞に先立つ限定詞によって数がマークされ、名詞語尾の複数形マーカー (-s) は発音されないのが一般的である。BLANCHE-BENVENISTE (2004, 148) が *nombre général* と呼ぶ現象である。本構文の N2 は無冠詞であるから N2 の単複を音声的に知ることは難しい。口語を転写したコーパスとしてネット上の用例を見る限り、本構文の可算的な普通名詞 N2 に、複数のマーカー (-s) を付加することは、義務的と言うにはほど遠いようである。

だが、単複が同音でない *animal/animaux*, *journal/journaux*, *travail/travaux*, *oeil/yeux* などの名詞がある。ここでは *cheval/chevaux* を取り上げよう。

cheval「馬」は多義的で、動物としての馬は単数と複数、乗馬・馬術、馬肉の意味では単数での使用が基本である。aimer を使うならば、

(38) J'aime les chevaux. 「(動物としての)馬が好きだ」

(39) J'aime le cheval. 「私は馬(乗馬・馬術)が好きだ」

が普通である。(39)の場合、cheval は非可算的に捉えられているから、馬肉や馬の毛皮とも捉えうるが、フランス語共同体では馬肉を食べる習慣はそれほど顕著でないせいか、馬肉が好きという場合は

(40) J'aime la viande de cheval.

ということが多いようだ。

次の例はインターネットの旅行サイトで、旅先でしたいことを述べた文である。

(41) Moi je suis tres cheval et rando a pied (sic).

「僕は乗馬とハイキングが好きだ。」(<http://voyageforum.com/forum/>)
単数形の cheval は乗馬などの活動と理解される。他方、犬好きのサイトで犬以外に好きなものを尋ねるコーナーがあり、そこでは複数形が使われている。

(42) Re: Passion en dehors des chiens ?

-Ben pour moi je suis très "*chevaux*" puisque je suis cavalière depuis une vingtaine d'années enfin pour le plaisir uniquement

Re: 「犬以外に好きなものは？」

「そうね、私は「馬」が大好き。20年近くも趣味で乗馬をやってるから」
いずれにせよ、本構文の N2 の数についてはさらなる調査と考察が必要である。

3. 2. "être pour N2" との違い

本構文を GoES は "être pour ~" ["~を支持する"] とパラフレーズしているが、多少の違いがあると思われる。

- (43) a. *Etes-vous pour ou contre l'énergie nucléaire?*
(<http://fr.answers.yahoo.com/>)
「あなたは原子力に賛成ですか、反対ですか」
- b. *?Etes-vous énergie nucléaire?*
- (44) a. *Moi, je suis pour la peine de mort.*
(A. NOTHOMB, *Le fait de prince*, p.166)
- b. *?Moi, je suis peine de mort.* 「私は死刑を支持します」

上のようなシリアスな内容の N2 については、本構文よりも *être pour/contre N2* の方が適している。本構文は、N1(人)に対し、言語共同体における共同主観に含まれ、各構成員がよく知っていてアクセスしやすい社会的・文化的ステレオタイプの属性を付与する。そのため、気楽な自己主張や気軽な話題提供をして、似た者同士のゆるやかな連帯を求めるコミュニケーションに適している。くだけた会話におけるこうした談話促進機能を担う本構文は、論理的な議論や思考の掘り下げを追求する論争的な談話には不向きであり、そうした場合は "*être pour/contre N2*" が選ばれると考えられる。

3.3. 日本語のウナギ文との比較

本構文は形の上では日本語のウナギ文とよく似ている。ウナギ文は奥津(1978)をはじめ、比較的新しい久野・高見(2004)など、多くの研究がある。

- (45) 僕はウナギだ。

坂原(1990a, 49-56)はこうしたウナギ文を「役割が省略された同定文」と規定している。事実、この文は文脈によりさまざまな解釈が可能である。

- (46) 「僕は、注文する／好きな／釣った／描く／飼っている／のは、ウナギだ」

それに対して、フランス語の本構文は同定文ではなく、記述文であり、しかも、ステレオタイプの辞項とステレオタイプの属性が関わっている。そのため、(30)で見たように、専門語彙に属する辞項 *blue tabby/caméo* は不可で

あった。日本語のウナギ文は文脈・状況が設定されていればそうした制約はない。

(47) A: あなたが飼っている／好きな／探している猫の種類は何？

B: ほくはブルータービーだ。

また、注文の文脈を、ウナギではなく、コーヒーに置き替えて比べてみよう。

(48) (自分が注文する品が何かを述べる) 「(僕は) コーヒー」

a. - Je voudrais un café.

b. - Un café, s'il vous plaît. 「コーヒーお願いします」

c. - ? *Je suis café.*

ここでは、本構文も理解はされるがあまり適切ではない。連れがいて何人が注文する文脈でも同じである。

(49) a. - Moi, ce sera/c'est un café. 「僕はコーヒー」

b. - ? *Je suis café.*

では、次のような家庭での会話はどうか。

(50) (朝、妻が夫に尋ねる) 「(あなた) コーヒー？ 紅茶？」

a. - Tu veux du café ou du thé?

b. - ? *Tu es café ou thé?*

ここでも本構文は自然さを欠くが、次のように言葉を補えば座りが良くなる。

< c. - *Alors, aujourd'hui, tu es café ou thé?*

「どう、今日は、コーヒーの気分、それとも紅茶？」のようなニュアンスなのだろうか。また、次のような文脈では *aimer* よりも本構文が自然である。

(51) 妻: 「コーヒー飲む？」

夫: 「うーん、ここんどこコーヒーはちょっとね、いらぬ」

A: -Tu veux du café?

B1: -Ah non, en ce moment, *je n'aime pas beaucoup le café*, je n'en ai pas envie.

＜ B2: -Ah non, en ce moment, *je ne suis pas très café*, je n'en ai pas envie.

こうした点も踏まえて、今後、より具体的な検討を重ねていくことが必要である。

4. 最後に

本構文のニュアンスは、N1 ETRE N2という属詞構文の形を取ることによって、*aimer*, *préférer* が好みや生活習慣を表す以上に、N1 をさらに深く性質規定しているように感じられる。各例文に付した日本語訳に現れる「派、党、系、好き、ごのみ、ひいき」といった語はその関わりの深さの表現と見えよう。Dis-moi ce que tu manges, je te dirai ce que tu es. 「君がふだん何を食べているか言ってみたまえ。君がどういう人であるか言ってあげよう」というブリア＝サヴァランの有名な言葉があるが、この構文は Dis-moi ce que tu aimes/préfères/fais, je te dirai ce que tu es. 「君が何が好き／何をしているか、言ってみたまえ。君がどういう人であるか言おう」といった趣をもつように感じられる。

本構文のより精密な検討、および、日本語のウナギ文、接尾辞「系、派、族、党」などの考察は今後に委ねたい。

＜注＞

*) 本稿は「Je suis plutôt cinéma 構文, 日仏対照」と題して行った2回の口頭発表(フランス語学勉強会2007年12月8日、日本フランス語学会2008年4月26日)に手を加えたものである。その際、多くの方々から貴重なコメントや文献等に関する情報をいただいた。心からお礼を申し上げる。とくに古川直世氏には Peter Lauwers 氏のメールアドレスを教えていただき、口頭発表時に参照できなかった LAUWERS (2005, à paraître) を氏から直接電子的に送っていただくことができた。一本は極めて入手しにくい紀要に掲載さ

れ、もう一本は 2007 年の Word 誌への掲載が予告されていたが、雑誌自体が 2005 年 8 月以降休刊のため入手できずにいた。古川氏と Lauwers 氏に心からお礼を申し上げる。Lauwers の論考は理論的にも記述的にも野心的で精緻なものであり、研究の当初に参照できなかつたのは大変残念である。その後しばらく雑事にとりまぎれていたが、今回、著者自身の枠組みで問題を整理しなおした次第である。

- 1) 日本語との対照研究を視野に入れているため、例文には日本語訳を付している。
- 2) 本構文を取り上げてはいないが、朝倉 (2005) は名詞限定について常に参照すべき知見に満ちている。
- 3) 日本語で本構文を取り上げたものはとくに少ない。管見によれば石野 (2004, 4) と NAGANUMA (2005, p.113) がある。辞書では『プログレッシブ仏和辞典』第 2 版 (2008) が être の項目で「... がすきである, ... を支持する」とし、Moi, je suis rock'n roll. 「僕はロックンロールが好きだ」、Je ne suis pas très café. 「私はあまりコーヒーは飲まないんです」という例文を挙げている。
- 4) 無冠詞名詞の形容詞化の問題を LAUWERS は統辞的再カテゴリー化 (syntactic categorization) の枠組みで検討している。
- 5) vous が女性である場合もありうる。
- 6) LAUWERS (à paraître, 5) は不定形を従える次の例を出している。Que penses-tu des parcs d'attractions? -je ne suis pas trop tourner manège.(GoogleF)。だがまだ一般的ではないようである。本構文の人気の高さからして今後使用が広がる可能性はあるかもしれない。
- 7) bonbon(s) の複数形マーカーについては 3.1. 参照。
- 8) ただし本構文の N2 の形容詞性はそれほど高くない。LAUWERS (à paraître, 18-19) は N2 の品質形容詞的使用 (??un fils très musique) が不可であり、同

格的使用 (*Mon père, très vin rouge, n'a pas hésité à acheter tout le lot.*) なら可能であることを指摘している。

- 9) 「ステレオタイプの辞項」「ステレオタイプの属性」は、渡邊 (2011) がすぐれた紹介をしている ANSCOMBRE (2001) が提唱した「ステレオタイプ理論」から示唆を受けている。ある辞項のステレオタイプは、その辞項に随伴する複数のステレオタイプ文の開いた集合であり、話者が属する言語共同体の共同主観として示される。ANSCOMBRE の場合は主として、文と文の間の推論のレベルに関わっている。日本語における役割語を研究する金水敏らはスピーチアクトにおける定型性の観点から「ステレオタイプ」の概念を使用する (cf. 金水敏 (2003) 『ヴァーチャル日本語－役割語の謎』岩波書店)。社会心理学では差別や偏見との関連から「ステレオタイプ」に注目する (cf. 上瀬由美子 (2002) 『ステレオタイプの社会心理学』サイエンス社)。本稿の立場は ANSCOMBRE の立場に関わりが深いのが、推論のレベルではなく、辞項間の関係、周知性、単純性などの観点から「ステレオタイプ」という用語を使用する。
- 10) 広告における本構文の使用については LOPEZ DIAZ (2008), VERDELHAN-BOURGADE (1990) 参照。またことば遊びの観点からは『フランス語学研究』(2010) 44 号別冊の諸論文も参考になる。
- 11) *plutôt* については川口 (1993) 参照。
- 12) 例 (16) *Etes-vous "salé" ou "sucré"?* について、*Etes-vous salé ou *poivré/ *vinaigré/ *épice/ *relevé?* も不可である。属性のコントラストが鮮明である必要がある。接続詞 *ou* については LAMBERT (2008) 参照。
- 13) *Etes-vous plutôt bière ou vin raffiné ? -Moi je suis plutôt bière. -Moi je suis plutôt punch, vodka, rhum....* 「あなたはビール党、それともおいしいワイン党?」「私はビール党かな」「ぼくはパンチ、ウォッカ、ラムの方だ」というやりとりがある。ここではアルコールの枠組みのなかで、「パンチ、

ウォッカ、ラム」は第3項以下と言うよりも、ビール／ワインのような「普通の酒」よりもずっと「強い酒」を好むことを意味していると思われる。

<参考文献>

- ANSCOMBRE, J.-C. (2001), Le rôle du lexique dans la théorie des stéréotypes, *Langages*, 142, pp.57-76.
- AMOSSY, A. & A. H. PIERROT (2005) , *Stéréotypes et clichés*, Armand Colin.
- BLANCHE-BENVENISTE, C. (2004), Le singulier et le pluriel en français parlé contemporain, *Bulletin de la Société de linguistique de Paris*, XCIX, fasc.I, pp.129-154.
- LOPEZ DIAZ, M. (2008), Noms communs et noms propres "qualitatifs"?, *Travaux de linguistique*, 56, 1, pp.69-85.
- GOES, J.(1999), L'adjectif, Entre nom et verbe, Duculot.
- LAMBERT, F. (2008). Les intermittences du *ou* en français, *Revue de Sémantique et Pragmatique*, 24, pp.115-141.
- LAUWERS, P. (2005). Copular constructions and bare nouns. The recategorization problem and the distribution of semi-copulas. Katholike Universiteit Leuven Reprint, 231, pp,1-25.
- LAUWERS, P. (2007a). Les noms nus inanimés attributs. Essai de classification syntaxique et sémantique, *French Language Studies*, 17, pp.81-102.
- LAUWERS, P. (à paraître). Copular constructions and adjectival uses of bare nouns in French: a case of syntactic recategorization?", *Word*, 2007.
- NAGANUMA, K.(2005) , Les syntagmes nominaux sans déterminant en position attributive dans une phrase copulative: à propos de la fonction de description de rôle, 『外国語教育論集』 27, pp.107-116, 筑波大学外国語センター .
- NOAILLY, M. (1990), *Le substantif épithète*, PUF.

- PLANTIN, C. (éd.) (1993), *Lieux communs, topoi, stéréotypes, clichés*, Kimé.
- RIEGEL, M. (1985), *L'adjectif attribut*, PUF.
- SCHAPIRA, C. (1999) , *Les stéréotypes en français : proverbes et autres formules*, Ophrys.
- VERDELHAN-BOURGADE, M. (1990), Communiquer en français contemporain: "Quelque part ça m'interpelle", phénomènes syntaxiques en français branché, *La Linguistique*, 26-1, pp.53-69.
- 朝倉季雄 (木下光一校閲) (2005) 『フランス文法集成』 白水社.
- 石野好一 (2004) 「動詞のココロは無限大「私は café」 -- être」 『ふらんす』 4月号, pp.66-67.
- 奥津敬一郎 (1978) 『「ボクハウナギダ」の文法ーダとノ』, くろしお出版.
- 川口順二 (1993) 「plutôt と多義性」 『フランス語学研究』 27, pp.1-18.
- 久野暁・高見健一 (2004) 『謎解きの英文法 --- 冠詞と名詞』 くろしお出版.
- 『フランス語学研究』 (2010) 44号別冊、「ことばを(で)遊ぶ」日本フランス語学会研究促進プログラム I, 168p.
- 坂原茂 (1990a) 「同定文・記述文とフランス語のコピュラ文」 『フランス語学研究』 24, pp.1-13.
- 坂原茂 (1990b) 「役割, ガ, ハ, ウナギ文」 『認知科学の発展, 3, 特集メンタルスペース』 講談社, pp.29-66.
- 渡邊淳也 (2011) 「ステレオタイプ理論をめぐって」 『フランス語学研究』 45, pp.79-86.